

沖縄におけるEVを活用した観光の取組について



下地芳郎
琉球大学観光産業科学部 教授 学長補佐

本日の内容



1. 最初に

～世界水準の観光・リゾート地を目指して～

2. 環境に配慮した観光の取組

3. スマートリゾート沖縄プロジェクト

4. 最後に

～選ばれる観光地になるために～

1. 最初に

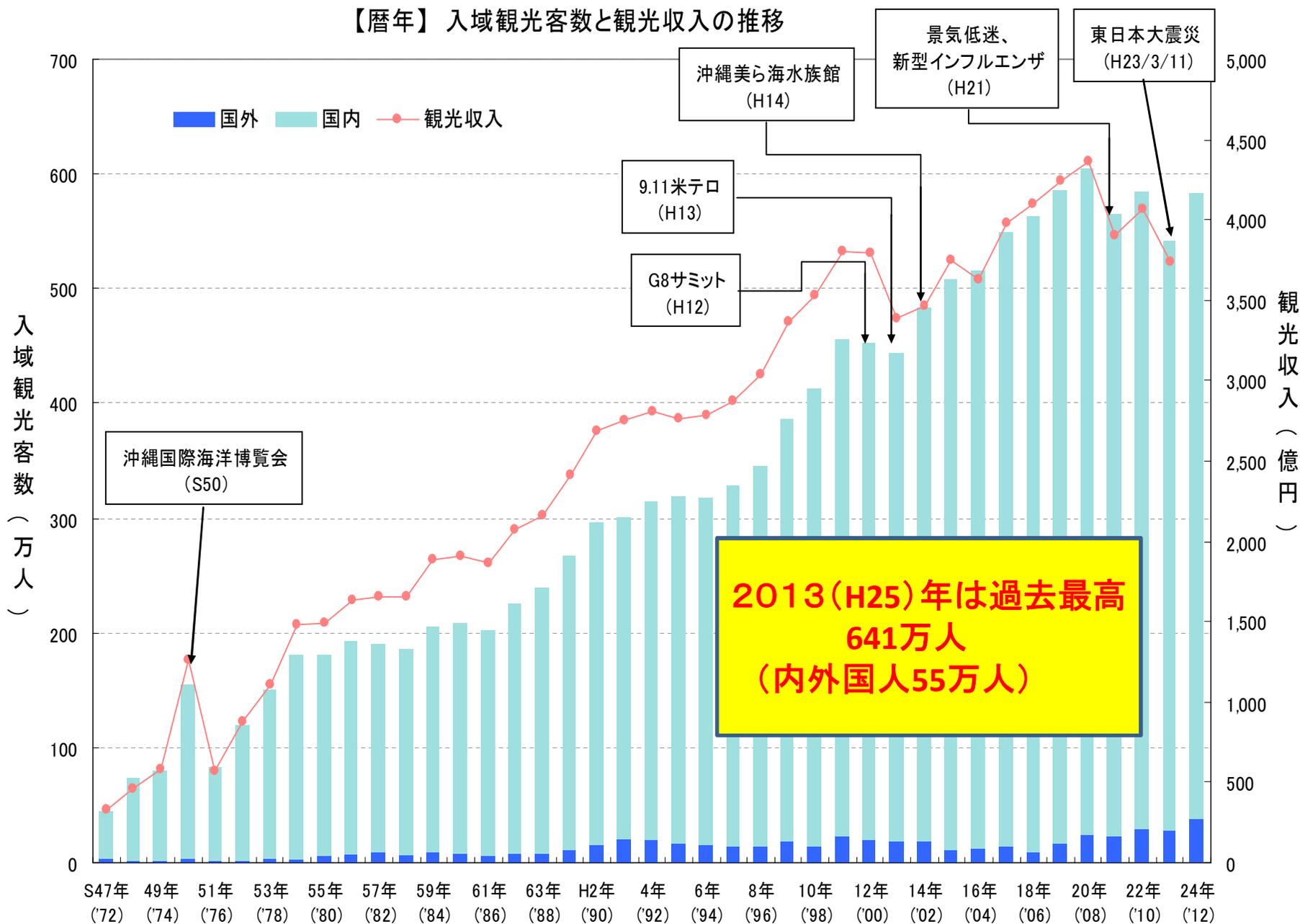
2020年までの6年間が重要！

年	沖 縄	日本・世界
2014年	那覇空港国際線ターミナルビル完成 那覇港クルーズターミナルビル完成	消費税8%へアップ サッカーワールドカップ(ブラジル)
2015年	戦後70周年 沖縄国際海洋博覧会40周年	戦後70周年 消費税10%へアップ(?)
2016年	第6回世界のウチナーンチュ大会	オリンピック(ブラジル・リオ)
2017年	* 大型MICE施設、空手会館 サッカー施設等整備注目 * 県内交通機関整備必要 * 世界自然遺産登録？	
2018年		
2019年		
2020年	那覇空港第二滑走路供用開始	東京オリンピック開催

世界自然遺産 北部3村、西表島が暫定リスト記載へ



【暦年】 入域観光客数と観光収入の推移



2013 (H25) 年は過去最高
641万人
(内外国人55万人)

資料出所： 沖縄県「入域観光客統計」、沖縄県「観光統計実態調査」

ポイント1

今、沖縄に滞在している観光客数

**2014年8月の観光客数は約70万人
1日当たり22,580人が来県**

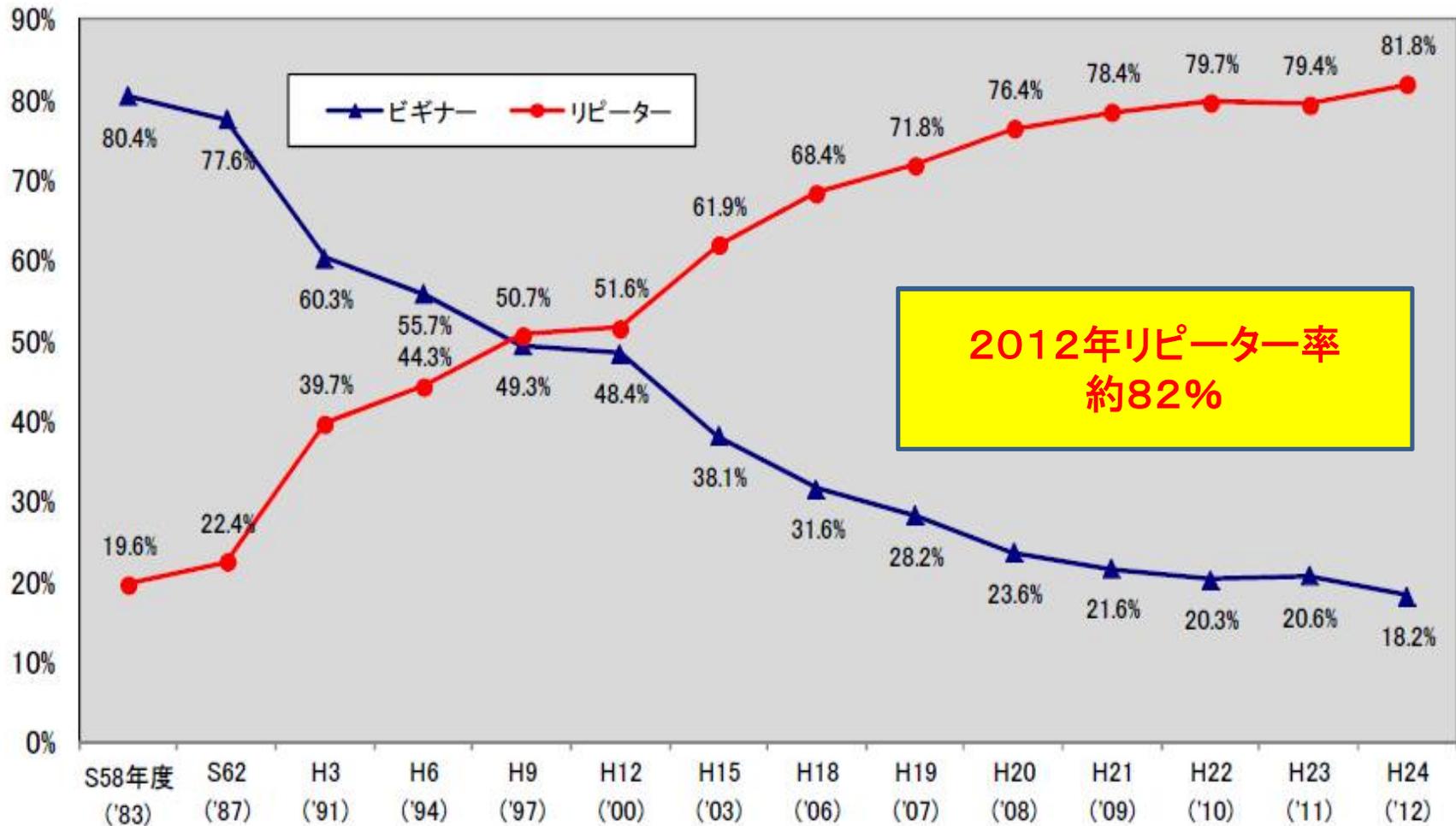
8月の平均滞在日数は4.18日

1日当たりの滞在者数は約9.4万人

宜野湾市9.3万人 名護市6.1万人 石垣市4.6万人

沖縄観光のリピーター率

初回来訪率とリピーター率の推移



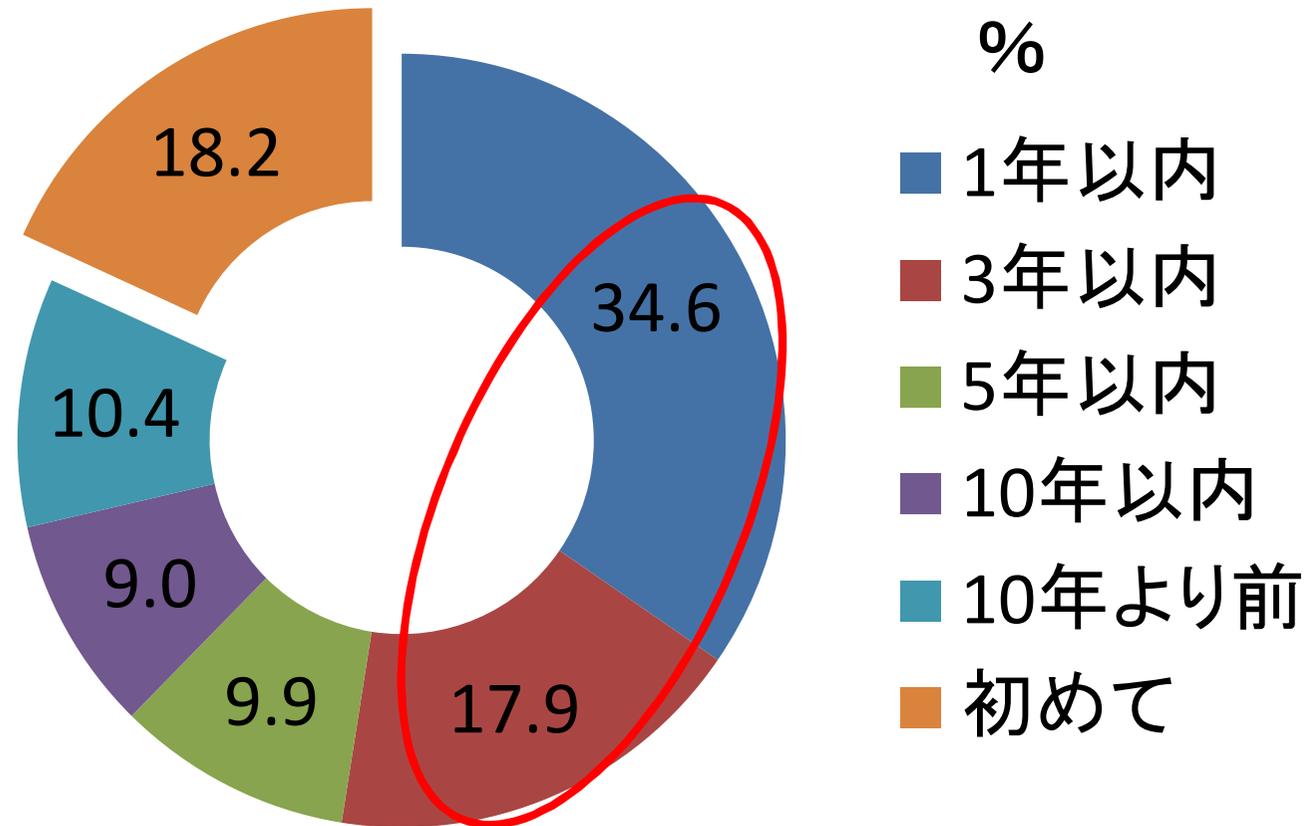
2012年リピーター率
約82%

※出所：沖縄県「観光統計実態調査」

※H12年度、H15年度、H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値

ポイント2

真のリピーター率は？



3年以内の再訪者は52.5%

沖縄21世紀ビジョン 2030年の目標

将来像① 沖縄らしい自然、歴史、伝統、文化を大切にする島

将来像② 心ゆたかで安全・安心に暮らせる島

将来像③ 希望と活力にあふれる豊かな島 ⇒観光 他

将来像④ 世界に開かれた交流と共生の島

将来像⑤ 多様な能力を発揮し、未来を拓く島

次世代のために
成すべきことは??



沖縄観光の未来～沖縄21世紀ビジョンから～

目標：世界水準の観光リゾート地

☆ 洗練された観光地としての基本的な品質を確保する

☆ 独自の観光価値を発揮することにより、アジア太平洋地域における競合地との比較対照の中で「沖縄／OKINAWA」のポジションが確立されている

☆ 国内外において高いブランド力を保持する観光リゾート地として認知された状態となっている。

目標： 観光収入1兆円， 観光客数1千万人
(外国人200万人含)

沖縄観光の中長期課題

1. 観光地間の国際競争に対する対応

2. 環境問題に対する対応

3. 基幹産業としての役割の発揮



2. 環境に配慮した観光の取り組み



①エコツーリズム推進事業

- ・目的：自然環境等の保全に配慮し、地域活性化に資する持続可能な観光を目指す

- ・これまでの取り組み

- 平成14年度～16年度

- ⇒エコツーリズムガイドライン

- 沖縄県エコツーリズム推進計画

- 事業者間の「保全利用協定」締結促進

- 全国エコツーリズム国際大会（H14）

- 平成17年度～24年度

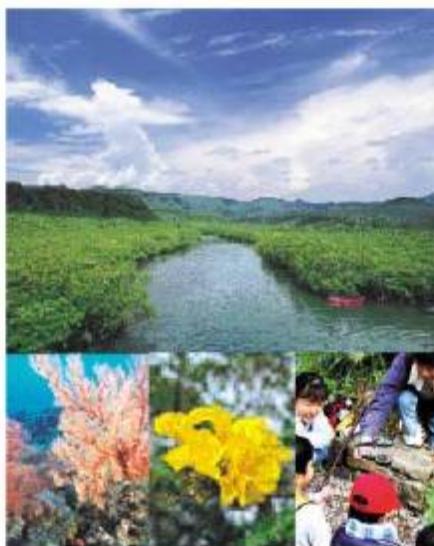
- ⇒NPO法人沖縄エコツーリズム推進協議会

- 設立（H18）

- ⇒地域版ガイドライン策定促進、情報発信等

- 平成25年度 認証制度研究

沖縄県 エコツーリズム ガイドライン2004



 沖縄県

沖縄県におけるエコツーリズムの定義

1. 自然・文化・歴史の適切な保全と持続的な活用
2. 地域の活性化
3. 訪問者が適切な案内をうけて地域の自然・歴史・文化とふれあう活動

という3つの要素をみたま観光の考え方



②持続可能な観光地づくり支援事業

- ・目的：観光地受入容量の定量化手法の研究等を通して持続可能な観光地づくりに向けた総合的な施策の展開を図る
- ・これまでの取り組み
 - 平成20年度～21年度
県全体の観光利用や観光資源の状況などを統一的な手法で把握した上で、バランスのとれた観光拠点のあり方検討と観光地受入容量の定量化手法の研究を行うため、県内観光拠点の現況評価を実施

表 2 - 3 潜在的観光魅力の評価基準

潜在的観光魅力	評価の基準
SA	<p>沖縄を代表する資源で、日本全国かつ世界に誇示しうるもの。また、沖縄のイメージ構成の基調となりうる程度の魅力を持った資源。この資源を見るためだけでも、沖縄に来る価値があると判断するに足ると思われる資源。</p>
A	<p>SA級に準じ、その誘客力は県外にも及び、沖縄観光のシンボルとして重要な役割をもつ程度の魅力を持った資源。沖縄に来たからには、ぜひ立ち寄るべき価値があると判断するに足ると思われる資源。</p>
B	<p>県民や沖縄を訪れた観光客にアピールし、地方のイメージ構成の基調となりうる程度の魅力を持った資源。資源単体としての誘客力はAに劣るものの、施設整備やプログラムの工夫などによって、観光対象としての魅力を増すと判断するに足ると思われる資源。</p>
C	<p>資源単体としての誘客力はBに劣るものの、施設整備やプログラムの工夫などによって、観光対象としての魅力を増すと判断するに足ると思われる資源。</p>

③環境共生型観光地づくり支援事業

- ・目的: 国際的な沖縄観光ブランドを確立するため、沖縄の豊かな自然環境を保全しつつ、適正な利活用を図る環境共生型観光を推進する

- ・これまでの取り組み

- 平成22年度～25年度

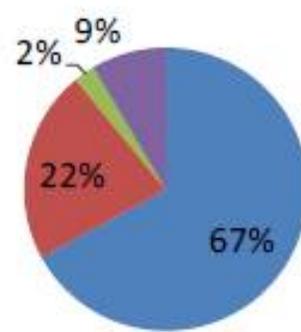
- ⇒市町村が行う環境に配慮した観光施設整備や市町村や地域の協議会等が行う環境保全活動やルール作りなどへの支援

- ⇒エコトイレ案内板、啓発活動、ガイドライン促進、木道、カヌー乗降場整備

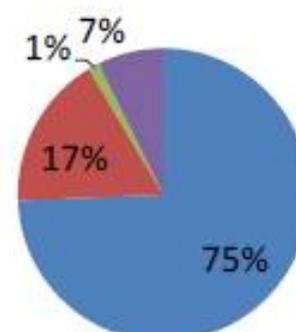
④エコリゾートアイランド沖縄推進事業

- ・目的：持続可能な社会実現を目指した取り組みが活発に行われる中、沖縄県の自然資源等の保全・育成に取り組むことにより観光産業においても環境負荷低減を図る
- ・これまでの取り組み
 - 平成22年度
 - ⇒県内の環境負荷低減への取り組み把握、観光産業におけるモデル的取り組み検討、エコカー導入モデル事業等
 - ⇒電気自動車導入支援(50台)、
普通充電設備支援(20か所)

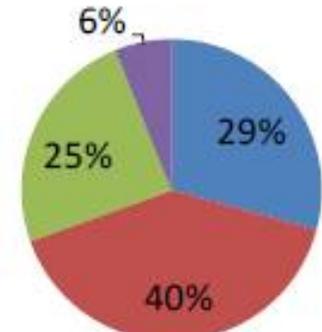
EV(電気自動車) 導入支援事業



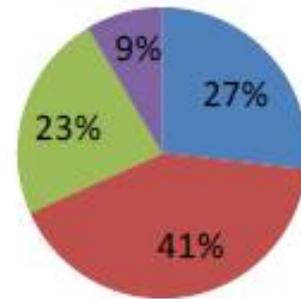
操作性・運転感覚



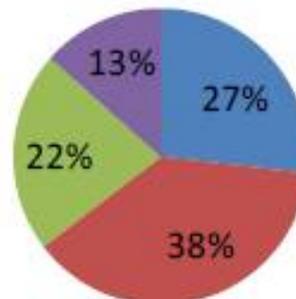
走行性能・加速感



電池容量・走行距離



充電設備整備状況



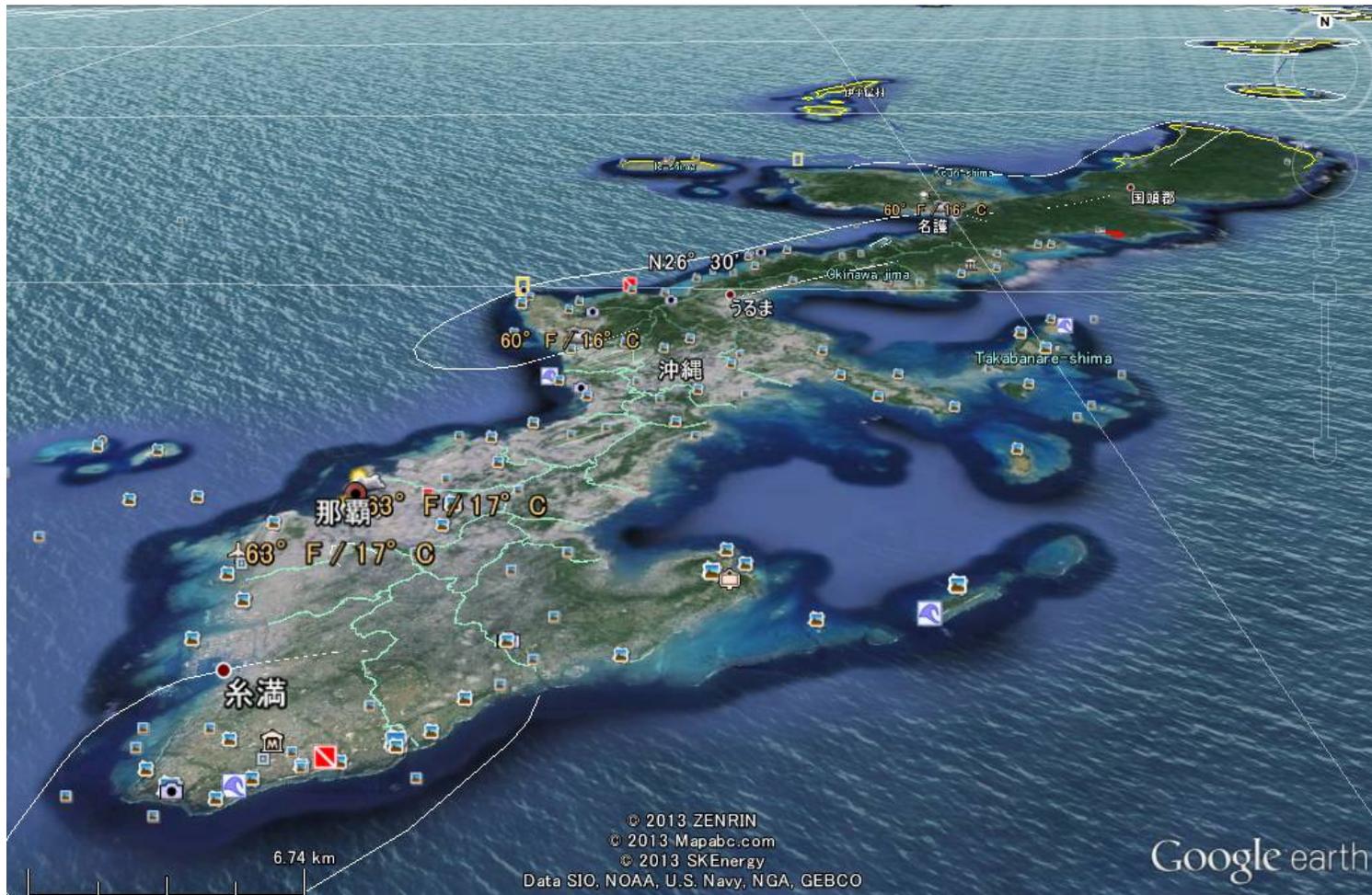
充電時間

- 不安はなかった
- やや不安だった
- 不安だった
- 無回答

【EVを活用した旅行商品の利用者へのアンケート結果（抜粋）】

3. スマートリゾート沖縄プロジェクト

～沖縄の観光資源である豊かな自然環境の保全を通じた、沖縄の観光ブランドのバリューアップ～



沖縄でのEV/PHV普及の歴史

『南北約140kmの沖縄本島で、平均2泊3日で約250kmを走る
年間約300万人のレンタカー観光客を対象とした沖縄』でさえ！ 普及は順調ではない。
観光客が持つ「知らない土地での不安」に加え、「電欠の不安感」は消費行動を抑えた。

それでも前へ！



車種				
		HV	EV	PHV
ガソリン スタンド	箇所	○ (約350か所)	—	○ (約350か所)
	給油 時間	○ (5分～10分)	—	○ (5分～10分)
充電 インフラ	箇所	—	△ (約30か所)(急速)	—
	充電 時間	—	△ (10分～30分)	—
車体価格		○ (約180万円)	△ (約300万円 補助金込みで 約220万円)	△ (約290万円 補助金込みで 約260万円)
航続可能距離		○ (約1,000km)	△ (約200km)	○ (約2,000km)
顧客評価		○	△	△

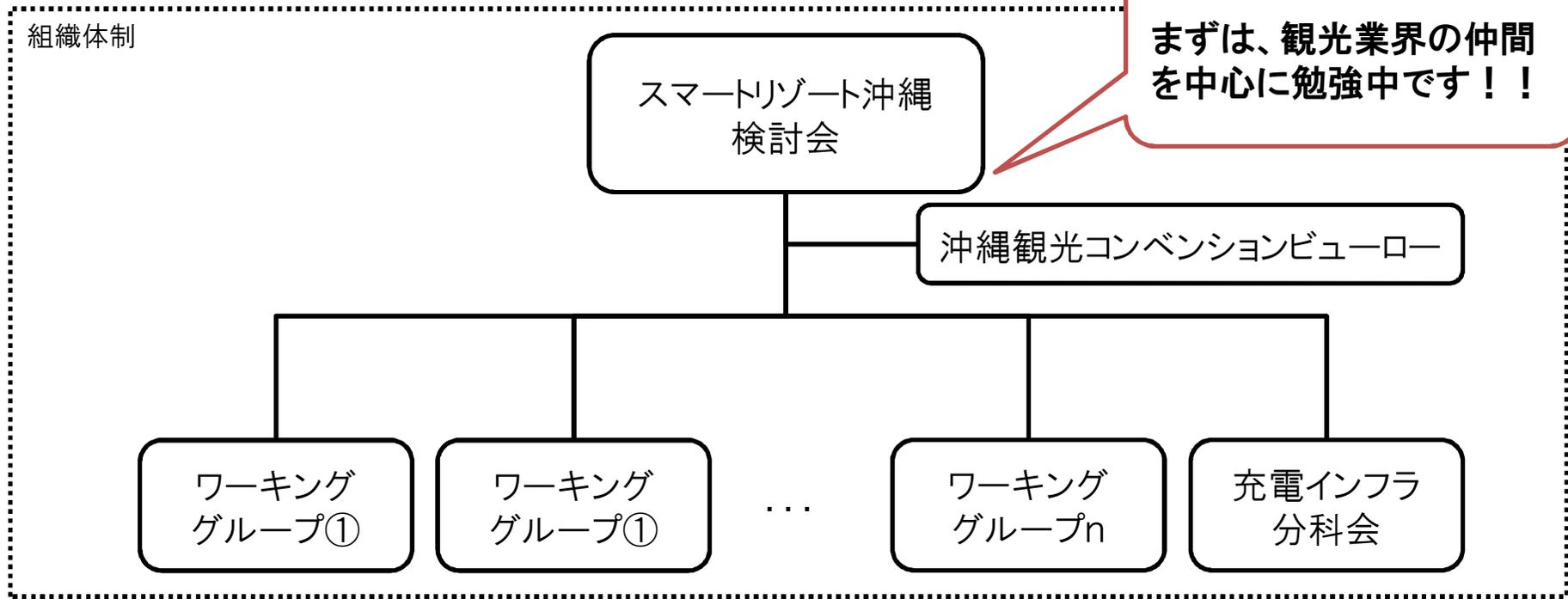
超小型EVを利用した 新たな取組



- ・航続距離約50km
- ・近場限定での利用
- ・車両価格約90万円

『更に小さな成功例』
に期待！！

ビジョン: 沖縄の観光資源である豊かな自然環境の保全を通じた、沖縄の観光ブランドのバリューアップ



第1回検討会(2013年11月11日)

各委員より、超小型EVによる地域課題の解決について、意見を集約。



楽しくやろう！

使える？

使えない？

第2回検討会(2013年12月16日)

超小型EVの試乗会を開催し、体験を基に超小型EVの利活用シーンを議論



へ～！

参加メンバー(2013年12月現在)

◎発起人

下地芳郎(座長) 琉球大学 観光産業科学部観光科学科
東 良和(副座長) (社)日本旅行業協会(JATA) 沖縄支部長
白石武博(副座長) (株)カヌチャベイリゾート 代表取締役社長
當山智士 (株)かりゆし 代表取締役社長
比嘉建己 ザ・テラスホテルズ(株) 取締役、ザ・ブセナテラス 支配人
前田裕子 (株)前田産業 代表取締役社長
宮里 哲 座間味村 村長/座間味村観光協会会長
古謝景春 南城市 市長
屋良朝治 沖縄観光コンベンションビューロー事務局長
中村圭一郎 (株)アンカーリングジャパン 代表取締役社長
早田敏也 トヨタ自動車(株)IT・ITS企画部スマートコミュニティ企画室 都市交通システムG
小島 修 トヨタメディアサービス(株) 代表取締役副社長

仲間を
募集中です！！

◎オブザーバー

内閣府 沖縄総合事務局 経済産業部 エネルギー対策課
内閣府 沖縄総合事務局 運輸部 企画室
沖縄県 観光振興課
沖縄県 環境政策課
経済産業省 資源エネルギー庁
グリーンパワープロジェクト事務局

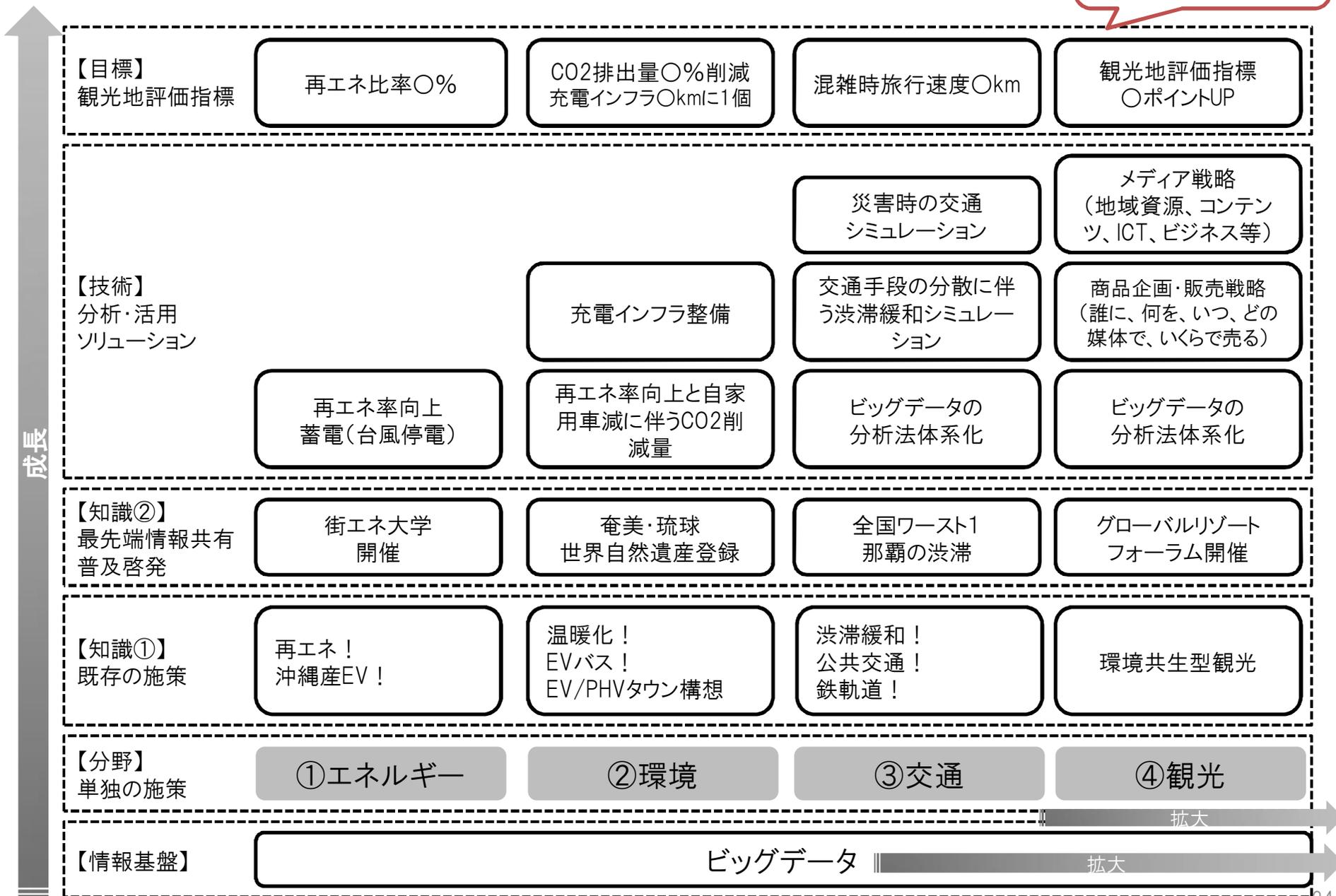
◎事務局: 沖縄観光コンベンションビューロー

◎ファシリテーター: 平井雅

スマートリゾート沖縄プロジェクトの対象領域

(ビジョン: 沖縄の観光資源である豊かな自然環境の保全を通じた、沖縄の観光ブランドのバリューアップ)

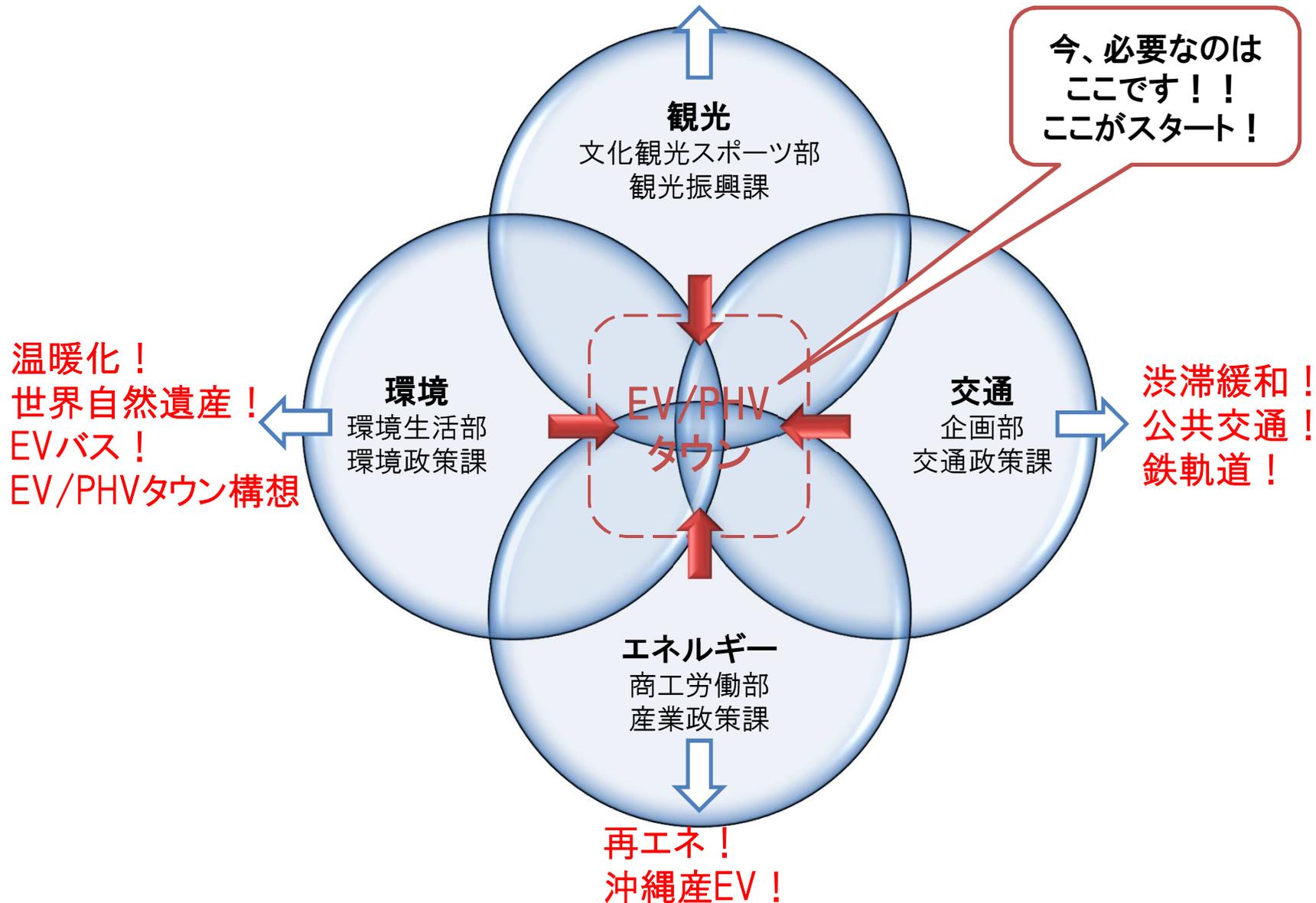
観光だけで全て
は出来ません！



沖縄県庁における行政体制の課題

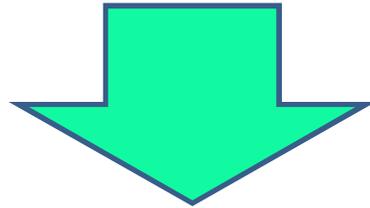
- 社会ニーズに即さない協働なき体制はもはや限界＝既にモチベーションキラー
- 異分野連携こそ、県民の期待感と達成意欲を掻き立てるモチベーションに成り得る！

エコツーリズム！



☆提 案☆

○EV/PHV普及などによるライフスタイルの
転換を通して
「住んでよし、訪れてよし」の沖縄へ！



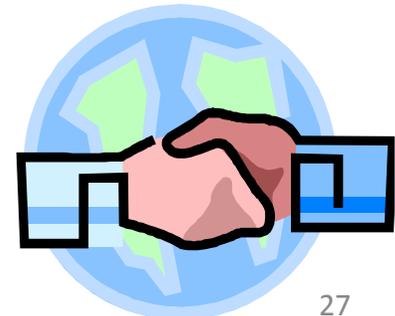
「沖縄スマートリゾート推進協議会」(仮称)
設置を！

- * 沖縄県庁が中心となって「産学官」で構成
⇒沖縄だけでなく県外企業等も参加！

4. 最後に

～沖縄が世界から選ばれる観光地になるために～

- ・世界は観光客獲得を巡って激しい競争
- ・世界の国際観光客数は10億人超え更に増加中
- ・ブランド力のある観光地が選ばれる
- ・自然＋歴史＋文化に加えて「**技術(テクノロジー)**」必要
- ・EV・PHVの普及は「**環境に優しい**」観光地としてのイメージアップに貢献&他(競合地)との「**差別化**」に貢献
- ・**県民の意識改革&「産学官」連携が必要**
⇒「**スマートリゾート推進協議会**」





ご静聴有難うございました
Thank you very much !